

令和6年度 今治西部丘陵公園 指定管理者モニタリング結果

施設名	今治西部丘陵公園（しまなみアースランド）
所在地	愛媛県今治市高地町2丁目乙429-1
指定管理者	名 称 株式会社今治・夢スポーツ 代表者 岡田武史 住 所 愛媛県今治市高橋ふれあいの丘1-3 今治里山スタジアム
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。 その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。
担当部課 (問合せ先)	建設部 都市政策局 公園緑地課 TEL：0898-36-1563 E-mail：kouen@imabari-city.jp

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	A	基本方針に基づいた活動を常に意識しており、おおむね計画に沿った管理運営を行うことができました。	A	環境教育プログラムや幼児環境教育プログラム「morocco」、自主事業等への参加者や施設利用者に対しては、引き続きこれらを周知し、各事業に取り組んでいただきたい。
利用状況	B	おおむね計画に沿った利用状況になりました。 特に学習棟利用合計と公園利用合計については適切な減免申請をしていたことに加え、市役所の利用も増えたことで、件数・人数共に計画を上回りました。 環境教育プログラムでは少子化の影響が顕著になってきているので、市外への展開を進めています。	B	環境教育プログラム利用者数・自主事業イベント参加者数を除く、年間の入園者数・学習棟利用者数・公園使用者数・幼児環境教育プログラム利用者数は前年度と比較して増加した。また、環境教育プログラム利用者数を除く、全ての利用者数・参加者数は当初の計画を達成した。今後は、利用促進のための各種団体への誘致活動の実施や旅行者との連携強化を積極的に図り、利用者数を伸ばしていただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
事業収支	A	経年劣化や自然災害の影響で想定外の施設修繕が必要になることがあるなど、一部予算との差額が大きいものもありますが都度修正して管理することができました。 外部への委託業務についても検討し、来年度も計画的な支出管理と園内管理を行うよう心がけたいと思います。	B	収支の会計処理については、会社と指定管理業務は独立して会計処理が行われており、予算が適切に執行されている。 予算額に比べ増加した自主事業収入は、適切に反映されている。 支出における予算額と決算額の差が大きかった人件費・植栽管理・園内草刈、除草については、計画的に実施するとともに、適切な執行に取り組んでいただきたい。
管理運営体制	A	視察に出向いたり講座を受講したりするなど、計画的に研修に取り組み、インストラクターや公園管理者にとって必要な知識と技術の習得に努めることができました。	B	組織内研修（プログラムインストラクター養成）や派遣研修（施設視察研修・実践講座・講習会）を実施することにより、必要な資格者や研修受講者の適切な配置ができた。また、外部研修参加後のフィードバックの時間を設け、組織内での情報共有や意識統一を行っている点は評価できる。 常勤職員だけでなく臨時職員への組織内研修や勉強会などを充実させ人材育成を図り更なるレベルアップに努めて欲しい。 窓口・電話対応できてない時間帯があり、植栽管理業務や日常点検業務が一部不十分である。 組織体制としては、指定管理者の指定申請書に記載されている勤務ローテーションを維持すべきである。施設運営において応援を必要とする業務が増大しているのであれば、年度当初から業務量に見合った常勤職員（現場）の補充を検討するなど、安定的な体制で運営にあたっていただきたい。
管理運営業務	A	自然災害による想定外の設備不具合等が生じることもありましたが、公園緑地課や業務委託先との連携を図り来園者・利用者が安全に過ごせるよう対応しました。 自主事業の一環として一般利用者との交流も兼ねた園内整備活動にも積極的に取り組むことができました。	C	仕様書に記載されている植栽管理業務の実施基準である「施設等の維持管理に関する業務基準表」に関しては理解が十分でない部分があった。利用者や連携団体からの改善要望が多い維持管理業務は、利用者に不快感を与えないよう全ての業務を実施し、この業務基準表に定められた回数等の数量を指示どおりに履行されたい。 スタッフによる巡回回数を増やし日常点検や運用が適切に実施できれば、不具合の早期発見・早期修繕を行うことができる。 今後も、利用者のニーズの把握に努めるとともに、苦情や要望には迅速・適切に対応し、管理運営業務の改善を図っていただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
利用業務	A	おおむね計画を達成することができました。各種事業において少子化の影響も顕著になってきており、対策を講じています。 NHKや市政広報番組での取り上げ、ネット記事の掲載、植樹祭関連事業のフォーラムでの事業発表など宣伝広報活動や誘致活動を積極的に取り組んできた成果が表れているので、来年度以降も継続していきます。	B	環境教育プログラム利用者数・自主事業イベント参加者数を除く、年間の入園者数・学習棟利用者数・公園使用者数・幼児環境教育プログラム利用者数は前年度と比較して増加した。また、環境教育プログラム利用者数を除く、全ての利用者数・参加者数は当初の計画を達成した。 また、宣伝広報業務は、ホームページブログ、FacebookやinstagramといったSNS、チラシ等を活用しPRを行っている。来園者を増やす情報発信の取組としてこれら更新回数やフォロワー数は評価できる。 今後は、利用促進のための各種団体への誘致活動の実施や旅行業者との連携強化を積極的に図り、利用者数を伸ばしていただきたい。
その他業務	A	開館日及び利用時間については条例で定められた通りに管理運営し、夜間利用の希望にも対応できるよう臨機応変にシフト対応致しました。 学習棟内、園内巡回清掃に努め、利用者が気持ちよく使える公園を目指しました。	B	その他業務は、適正に業務が遂行されている。事故防止や発生時のマニュアルをプログラムごとに作成し、安全の向上に努めている。 夜間利用へ確実に対応できる体制づくりに取り組むことができた。 2025年3月に発生した今治市林野火災に伴う災害発生時の対応（夜間連絡体制・現地対応も含め）は適切だった。
修繕業務	A	経年劣化や自然災害に起因する想定外の修繕も多くありましたが、スタッフ間での共有により早急に対応することができました。 都度市役所とも相談のうえ、利用者への影響が最小限になるよう修繕を進めることができました。	B	突発的・応急的な修繕には適切に対処できている。発見された不具合への対応は、早急にその都度行い、委託業者や市からのアドバイスや指示は忠実に実行に移してもらいたい。今後も利用者の安全を最優先に考え、関係団体と協議・検討を十分行った上で、優先順位をつけて計画的に修繕を行っていただきたい。
備品管理業務	A	年度中に計画を変更することとなりましたが、市役所とも相談のうえ必要に応じた購入を進めました。 備品を購入したことで作業の効率化や職員の安全確保にも寄与することとなり、安全衛生の面で大きく効果がありました。 来年度は施設利用者のニーズを把握し、それに応じた備品購入も検討していきます。	B	2024年9月に購入したラジコン草刈機の購入の必要性については、市と指定管理者が適切に協議ができた。備品は必要に応じ適切に購入し管理できている。今後は、購入予定時期等を十分検討するとともに、利用者のニーズに応じた備品購入を検討していただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
行政財産の目的外使用許可手続業務	A	飲料と氷菓の自動販売機を設置しており、気候が良い時期には熱中症対策にも寄与すると考え、大型イベント開催時など特に来園者数が増加する可能性がある際には商品を切らさないよう努めました。 計画額には至りませんでした。昨年設置した氷菓用ゴミ箱を継続し今後も販売促進になるよう努めます。	A	適正な対応が行われている。
自主事業	A	季節を感じられる既存イベントは継続しながら、アースランド周知を目的とした市内外への出店や今治初開催となるイベントの実施など、新たな自主事業にも取り組むことができました。 新たな層へのアプローチやイベントをメディアで取りあげていただくなど、多くの参加者に楽しんでいただきながらアースランドの存在を多くの方に知ってもらうことのできた1年となりました。	A	公園設立の趣旨に沿った多岐にわたる自主事業を行っており、利用者からも好評を得ている。アースマルシェは各種団体と連携した継続事業だが、公園の活性化に寄与した。moroccoインストラクター講習会は幼稚園等の先生を対象にした継続事業だが、環境教育を実施できる人材の育成に貢献した。今後も引き続き、多種多様な自主事業を積極的に行っていただきたい。
地域団体との連携	A	新たな団体との連携により今治初となるイベントを開催することができたり、既存イベントを更に良いものになるよう努めることができました。 自主事業への参加募集のために市内公民館や図書館にチラシを設置するなどの協力もいただいたので、引き続き地域団体等との連携を図っていきます。	B	2024年12月、第76回全国植樹祭関連事業へのしまなみアースランド管理・企画運営責任者1名の参加は、地域団体の動きを知り、連携に繋がる良い機会になるとともに、しまなみアースランド環境教育のアピールができた。 今後は、岡山理科大学や小泉青空クラブ等地域団体との連携・協力の取組を積極的に行い、更に新たな団体との関係を構築し、情報交換や地域交流を深めていくことを期待したい。
利用者アンケート	A	回答目標者数は達成することができました。 評価項目を見直したことで新しく知れたこと、さらに必要なことが見えた1年だったので、来年はさらにアップデートして引き続き来園者とのコミュニケーションを大切に運営していきたいと思えます。	B	利用者アンケートは200人の計画に対し224人から回答が得られており評価できる。 今後は、アンケートの適切な設問内容を検討し、アンケート結果から課題を分析し改善に繋がれるよう効果的に実施していただきたい。
事故・苦情	A	過去に起きた事故等への対応を継続してきた結果、年間通して大きな事故はありませんでした。 いただいた苦情等に対してはすぐに対応し、利用者の方々に安全で楽しく過ごしていただけるよう努めました。	B	ふわふわドームでの利用者のケガ防止対策について、市と指定管理者が内容を検討し、砂を定期的にやわらかくするなどの対策を講じた。しかし、雑草管理や落ち葉の清掃に関する利用者からの苦情・要望は常にある。安全・安心して利用できる施設となるよう、組織内で情報共有するとともに、苦情が少ない体制作りと、事故の未然防止のため適切に対応していただきたい。 引き続き、事故が発生した場合は、所定の手順に従って速やかに救急対応や市への報告に努めていただきたい。

課題	指定管理者自己評価	市による評価
指定管理者の経営状態		適正である。

総 合 コ メ ン ト (市)
指定管理者は、今治市公園条例及び施行規則並びに業務仕様書に基づき、施設の特性を踏まえた管理運営に努めており、指定管理業務の履行が適切に実施されていると認められる。 環境教育プログラム利用者数・自主事業イベント参加者数を除く、年間の入園者数・学習棟利用者数・公園使用者数・幼児環境教育プログラム利用者数は前年度と比較して増加した。また、環境教育プログラム利用者数を除く、全ての利用者数・参加者数は当初の計画を達成した。今後は、利用促進のための各種団体への誘致活動の実施や旅行業者との連携強化を積極的に図り、利用者数を伸ばしていただきたい。 予算額に比べ増加した自主事業収入は、適切に反映されている。支出における予算額と決算額の差が大きかった人件費・植栽管理・園内草刈、除草については、計画的に実施するとともに、適切な執行に取り組んでいただきたい。 仕様書に記載されている植栽管理業務の実施基準である「施設等の維持管理に関する業務基準表」に関しては理解が十分でない部分があった。利用者や連携団体からの改善要望が多い維持管理業務は、利用者に不快感を与えないよう全ての業務を実施し、この業務基準表に定められた回数等の数量を指示どおりに履行されたい。 宣伝広報業務は、ホームページブログ、FacebookやinstagramといったSNS、チラシ等を活用しPRを行っている。来園者を増やす情報発信の取組としてこれら更新回数やフォロワー数は評価できる。今後は、利用促進のための各種団体への誘致活動の実施や旅行業者との連携強化を積極的に図り、利用者数を伸ばしていただきたい。 公園設立の趣旨に沿った多岐にわたる自主事業を行っており、利用者からも好評を得ている。アースマルシェは各種団体と連携した継続事業だが、公園の活性化に寄与した。moroccoインストラクター講習会は幼稚園等の先生を対象にした継続事業だが、環境教育を実施できる人材の育成に貢献した。今後も引き続き、多種多様な自主事業を積極的行っていただきたい。 2024年12月、第76回全国植樹祭関連事業へのしまなみアースランド管理・企画運営責任者1名の参加は、地域団体の動きを知り、連携に繋がる良い機会になるとともに、しまなみアースランド環境教育のアピールができた。今後は、岡山理科大学や小泉青空クラブ等地域団体との連携・協力の取組を積極的に行い、更に新たな団体との関係を構築し、情報交換や地域交流を深めていくことを期待したい。

指定管理者選定審議会による総合評価	
B	運営会社ができる最低限の管理や自主事業が定期的実施されていることは評価できるが、民間である運営会社の持ち味が十分に活かされている結果にはなっておらず、管理や今後の事業展開において多くの工夫が必要となる。 管理運営業務の内、特に植栽管理、除草、「のぼり」といった利用者の目に見える所の改善が必要である。市による評価と差異があるので、業務仕様書の業務基準表を更に明確にすべき。何を目的として、どのレベルを目指すのか、それが必須となるのかも含めて、もう少しコミュニケーションと広い視野での対話が必要だと考えられる。その際、新しい提案がもっと市にあってもよいのではないかと。 地域団体との連携については、他団体との連携を希望されているようだが、実際は学校関係や企業研修以外には連携が広がっていない。コロナとなり予想外のことも多くあったことが推測されるが、理想と現実にギャップがあるように感じる。 過疎化高齢化にある今治市にとって人を呼べる公園であったことは、何よりも評価できる。今治西部丘陵公園においては今治自然塾がメインであるので、今後とも、情報発信やインストラクターの充実等、更なる積極的な対応をお願いしたい。